

親鸞、関東在住の二十年のあいだの伝道のなかで、共に念佛を喜びあえる人達の数は、その数、数万と伝えられている。そのうち、有能な人達五十人弱は、あるいは寺や道場を構え、その地方地方に「△△門徒」などと称する弟子門徒の教団組織を創設した人もいた。そしてそれらの集団は、関東一円に親鸞を「一本師聖人」と仰ぐ巨大な念佛教団を形成する勢いであった。

御家人組織でもって関東を制覇しようとしていた執権北条氏の幕府が、この念佛宗の台頭を好むはずはない。何度も法度をだして念佛を追放し弾圧し禁止を繰り返した。

この念佛宗徒の結束化(教団化)に拒否反応を示したのは、ただに政治権力ばかりではない。教団化のなかで、「本師」だ「聖人」だ「人師」だと、御同行たちから呼ばれる親鸞自身であつた。親鸞が、かれを慕う多くのお同行を残して関東を去つていった原因のひとつはここにあつたのではなかろうか。

親鸞にとって「師匠」「先生」とよべるのは法然さまお一人。ところが今の時代、名利欲から「師匠」は法然さまお一人。

「先生」とよばれたい人が多いのは何故だろう。

「是非しらず邪正も分か(ら)ぬこの身なりう。小慈小悲もなけれども、名利に人師をこのむなり」(雲林密語)

親鸞の生涯

弟子一人ももたず



さえも「如来より賜りたる信心」。したがつてだれもが如来に願われ呼ばれている「おん同行おん同朋」。「親鸞は弟子いちにんも持たず候」。これが親鸞生涯の構えである。にもかかわらず、自他ともに「人師をこのむ」この浅ましさ。これを悲嘆し自ら戒めたのが親鸞の生涯であつたと言つていい。

ひときのエピソードがある。

常陸の国新堤(にいつみ)に信楽といふ子弟がいた。常々親鸞のおしえと違つた教えを宣伝していた。親鸞の前で教理を論じたがどうしても親鸞の教義とは合わない。終に破門になって國に帰つてしまつた。そこで他の弟子たちが親鸞に申し立てた。「信楽さんは、あなたの上は、もう師弟の関係は切れてしまつた。だから、かつて貴方がお与えになつた、ご本尊・お聖教、(それにはあなたの署名もあることです)、だから早くそれらを取り返しながら、恐らく彼は、それらを捨てるか、悪いことに使うでしようから」それに対して親鸞は即座にこのように答えている。

「本尊・聖教を信楽さんから取り戻すということは決してしてはならないことです。何故かというと、まず、親鸞は弟子一人も持ちません。信心も私が授けるのではなく如来さまが衆生を救うてだてとして賜つたもので、けつして親鸞の独占物ではありません。信楽さんは「坊主僧けりや袈裟まで」と、憎い親鸞からもらったものを山野に捨ててしまうかも知れません。しかしそれは、きっと誰かの目にとまって衆生救済のはたらきを示すに違ひありません。念佛・本尊・聖經などは如来さまのお働きなのだから、決して財産財宝のように私物化してはなりません。」

背いた人をも一律に「如来の御弟子」としない敬い「御同行御同朋」とかしづいた親鸞さま。その親鸞の亡き後三十年もたつて信楽房は、悔いて再び念佛の門に帰つてきたと、親鸞の曾孫「覚如」は記録しています。

祝 成 人 式

中山 湯口 中島 岩上 宮嶋 井上

和人 勇希 初泰 明弘 大弘 明理 沙織 理恵 和人

(川原) (栗尾) (坪口) (河原) (栗尾)

一日 二日 三日 四日 五日 九日 二十日 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日 二十六日 二十八日 二十九日 三十日 三十一日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

一月 のこよみ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

平成20年元日

修正会(じゆしょうえ) 初参り 初参り 但東町初参り 本山まいり 和屋報恩講 朗誦ボランティアあすなろ 坪口報恩講 坪口報恩講

福知山石田家忌明 坂口女中講 坂口女中講 代議員会 常陸代会 常陸代会

出石報恩講 出石報恩講 榎見女中講 榎見女中講 佛壯役員会 みのりを聞く会

山田 豊さま忌明 山科宮嶋幸彦家法事 朗読ボランティアあすなろ

ご門主法話

悩みは尽きないままに
悔愧と感謝で生き抜く

門主 大谷 光真

人間の悩みと宗教には密接な関係がありま
す。日本では、自らのことを絶つ人、学校や社
会に適応できず苦しむ人、また高齢者として
の悩みや不安、あるいは介護の悩みなど、深
刻な悩みをかかえた方々は少なくありません。
ところが、それが直ちに仏法を求めるこ
につながってはいないようです。その理由の一つは、今ある現実の悩みに親
鸞聖人のみ教えを直接あてはめようとするか
ら、かみ合わないということがあるかもしれません。
しかし、浄土真宗は、病気を治したり、經
済生活のうえでの悩みを解決するためにある
のではなく、また、道徳を説くものでもあり
ません。ただひとえに往生成仏（わたしが往
生してほとけになる）教えです。
ですから、わたしの今の現実の願いを解決
してほしいと思っても、その期待通りにはな
りません。しかし、じっくりとみ教えを聞くと、私た
ち人間の願いを超えた大きな大きな願いの中
に、願われてることの素晴らしさがわかつ
てきます。平生は意識しにくいものの、私たちは、人
間としての根源的な課題を抱えております。
生まれたからには死は避けられない。老
病・死などなど、限られた人間の智慧ではど
うしてもようもないこの現実。また、正義や
善意とのとき信じて行ったことも、必ずし
も相手のためになるとは限らないことなどが、
しばしばあります。にも拘わらず、それらを
覆い隠したままで、目前の困難を解決しよう
とするのが私たちの日常です。慈悲の南無阿弥陀仏となつて、生きて行くう
えで避けられない苦悩のなかにあるわたしを
そのまま受け入れ、いつでもどこでもはたら
かかけてくださっていることに目覚めること
です。阿弥陀如来の願いのなかで、各自が抱
えている課題問題の解決を目指すのが、お念
仏の生活です。悩みは尽きないままに、その内容や意味が
転換されて、悔愧（さんぎ）と感謝をもつて
生き抜く道、それが仏道と言えるのでしょうか。
先人の方々は、自分の悩みや問題をかかえ
ながら、お念佛と共に、人生を生き抜かれま
した。その人達の体験から学び、現代の課題
に取り組んで、お念佛の朋（とも）の輪を広
げたいと思います。

情けは人のためならず

身体障害者〇さん

情けは人のためならず

情けは人のためならず

情けは人のためならず

慈悲の南無阿弥陀仏となつて、生きて行くう
えで避けられない苦悩のなかにあるわたしを
そのまま受け入れ、いつでもどこでもはたら
かかけてくださっていることが、ちょっとと「打算」が混ざつていてどうも
わたしにははじめません。

これがこの言葉の本来の意味なのでしょう

が、ちょっとと「打算」が混ざつていてどうも
わたしにははじめません。

福報活動も自分の幸せの種

これがこの言葉の本来の意味なのでしょう

が、ちょっとと「打算」が混ざつていてどうも
わたしにははじめません。

これがこの言葉